

## 3. 事業概要

### (1) 常設展

常設展示室は全体で5室の構成となっている。第1室は「山梨の文学風土」と「樋口一葉」コーナー、第2室は「山梨出身ゆかりの作家と作品」、第3室は芥川龍之介コーナー、第4室は飯田蛇笏・飯田龍太記念室として年4回春夏秋冬に一部の資料の入れ替えを行っている。第5室は山梨出身・ゆかりの作家104名をジャンルごとに年2回入れ替えて紹介している。

なお、令和2年2月28日（金）～5月21日（木）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示室を休室とした（4月7日（火）からは全面休館）。

5月22日（金）再開後は、第1～4室は下記のとおり夏秋冬に一部の資料の入れ替えを行い、第1室の一郭にコーナーを設け、期間限定で資料を公開した。第5室は8月30日（日）までを前期、10月3日（土）～令和3年3月7日（日）までを後期とし、計104名を紹介した。

以下の資料一覧には、令和2年5月22日（金）～令和3年3月7日（日）の間、常設展示室に出品した資料すべてを提示した。

## 第1室

### 期間限定公開

#### ◆ 夏の常設展 5/22（金）～8/23（日）

山梨の文学碑1 山崎方代「ふるさとの右左口邨は骨壺の底にゆられてわが帰る村」甲府市右左口町

「ふるさとの右左口邨は骨壺の底にゆられて吾が帰る村」軸装

写真パネル 山崎方代の生家跡に建つ歌碑 2020年2月撮影

写真パネル 山崎方代歌碑の除幕式 1981年4月19日

#### ◆ 秋の常設展 8/25（火）～11/29（日）

山梨の文学碑2 芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」北杜市長坂町清光寺

芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」軸装

「朝陽日報」

#### ◆ 冬の常設展 12/1（火）～3/7（日）

山梨の文学碑3 前田晁「一人の心は万人の心 文化の根源はここにある」山梨市民会館脇

前田晁筆「一人の心は万人の心 文化の根源はここにある」一枚物

中村星湖 短冊（前田晁文学碑建立を祝う漢詩）

前田晁文学碑建設趣意書

## 山梨の文学風土

#### ◆ 甲斐のうた（パネル展示）

酒折の宮／塩の山・差出の磯／都留の郡／甲斐の牧

#### ◆ 甲州の紀行文

深草元政『身延道の記』元禄17年刊

荻生徂徠『徂徠集』卷之十五 元文元年序文「峡中紀行」収録

賀茂季鷹『富士日記』文政6年刊

#### ◆ 甲府学問所 徽典館

乙骨耐軒「徽典館学頭勤務割」

乙骨耐軒「維心亭齋詩」三集上・下

甲府勤番支配宛 徽典館学頭任命通知書

乙骨耐軒「維新亭齋詩初稿」

乙骨耐軒「甲役途中詩」

## ◆ 国学を学んだ人々

萩原元克編『甲斐名勝志』天明3年9月刊  
萩原元克「うまひとのとひきまさずばいたづらに庭の真萩はちりゆかましを」短冊  
本居宣長点 辻守瓶「万葉の集見ずして」一枚物  
万葉和歌集 卷第二十

### 樋口一葉（ひぐち いちよう）

樋口一葉 手習い帖「徒然草」  
樋口一葉 小短冊  
下村為山 画 樋口一葉肖像〈複製〉  
樋口一葉 古屋家宛書簡 1893（明治26）年5月7日  
樋口一葉 筆「伊勢物語」  
樋口一葉「詠草」1895（明治28）年9月  
樋口一葉「寄紅葉恋」詠草断簡 軸装 1894（明治27）年11月  
樋口一葉 古屋家宛書簡 1890（明治23）年10月13日  
樋口一葉「まだ消えぬみ山のまつの上にかすみて出るはるのよの月」「ますかがみみしらぬ人の  
ころまでうつすは筆のすさび成けり」短冊軸装  
樋口一葉 馬場孤蝶宛書簡 1895（明治28）年9月17日  
樋口一葉「寄紅葉恋」（数詠補遺）軸装 1894（明治27）年11月22日  
馬場孤蝶 編集・校訂『一葉全集』前編 1912（明治45）年5月 博文館  
吉川学校下等小学第八級卒業証書 1878（明治11）年6月  
樋口一葉「たけくらべ」原稿〈複製〉  
樋口一葉「ゆく雲」未定稿〈複製〉  
下村為山 樋口一葉肖像画〈複製〉  
木村荘八「たけくらべ絵巻」画稿控  
一葉 筆「伊勢物語」  
新五千円札（A000006A番）  
一葉愛用の筆立て  
一葉愛用の髪飾り・櫛・こうがい  
写真パネル 母多喜・奈津（7歳頃）・姉ふじ・妹くに 本郷6丁目5番屋敷時代  
写真パネル 左から次兄・虎之助、父・則義、長兄・泉太郎  
樋口虎之助作 薩摩焼絵付皿  
写真パネル 萩の舎集合写真  
写真パネル 半井桃水  
写真パネル 竹内桂舟 画「うもれ木」第7回挿絵  
写真パネル 文学界同人  
写真パネル 一葉女史の碑建碑の日 1922（大正11）年10月15日

## 第2室

### 井伏鱒二（いぶせ ますじ）

井伏鱒二「はるのねざめのうつゝできけばとりのなくねでめがさめました」軸装  
井伏鱒二 画 絵付け皿  
井伏鱒二「幸富講境川に来る裏で釣る部屋で飲むそれで良い」軸装  
井伏鱒二「わたくしは平凡な言葉を好きな人間になりたい」額装  
井伏鱒二「頓生菩提」原稿〈複製〉  
「改造」第16巻第13号 1934（昭和9）年11月「頓生菩提」収録  
井伏鱒二『頓生菩提』1935（昭和10）年 竹村書房  
井伏鱒二「大月の岩殿山」原稿  
「文学界」第38巻第1号 1984（昭和59）年1月「大月の岩殿山」掲載  
井伏鱒二「今日は仲秋名月 何々をしのぶ宵わしら萬障くりあはせよしの屋でひとり酒をのむ」額装

井伏鱒二「あきのおんたけこゝのつどきにひとりのぼればはてなきおもひ」軸装  
井伏鱒二「私は樹木が好きである特に竹柏樟白楨棗の木などに愛着を持つてゐる」軸装  
井伏鱒二「なだれ」色紙  
井伏鱒二「近逢春時」額装  
井伏鱒二「あきのおんたけこゝのつどきに」軸装

## 太宰 治（だざい おさむ）

太宰治 井伏鱒二宛書簡 1938（昭和13）年10月31日消印  
太宰治「斜陽」草稿（複製）  
「新潮」昭和22年7月号「斜陽」掲載  
太宰治『斜陽』1947（昭和22）年12月 新潮社  
太宰治「わが名は狭き門の番卒」色紙  
太宰治御坂峠文学碑「富士には月見草がよく似合ふ」拓本軸装  
太宰治『女生徒』1939（昭和14）年4月 砂子屋書房  
太宰治『富嶽百景』1943（昭和18）年1月 新潮社  
山田貞一画 太宰治『女生徒』表紙原画  
太宰治 井伏鱒二宛書簡 1938（昭和13）年10月25日消印（複製）  
写真パネル 御坂峠文学碑除幕式  
写真パネル 三鷹の古本屋にて 撮影 田村茂  
写真パネル 陸橋にて 撮影 田村茂  
写真パネル 太宰治、石原美知子結婚式

## 檀 一雄（だん かずお）

檀一雄 中国でのスケッチブック  
檀一雄「行く夏を何か惜まむ遠花火」一枚物  
檀一雄 水彩画  
檀一雄「潮騒や磯の小貝の狂ふ迄」色紙  
檀一雄「不思議な此処にして坪にも足りぬ鎮魂の仮現の憩ひ」一枚物  
檀一雄画「太郎生後九十四日」額装（複製）  
檀一雄「微笑」（『火宅の人』第1章）原稿（複製）  
檀一雄「旅立ち」原稿（複製）  
檀一雄『リツ子・その愛』『リツ子・その死』1950（昭和25）年4月 作品社  
檀一雄『長恨歌』1951（昭和26）年3月 文藝春秋社  
檀一雄『真説石川五右衛門』1951（昭和26）年9月 新潮社  
檀一雄『火宅の人』特装本 1979（昭和54）年6月 新潮社  
映画「火宅の人」ポスター 1986（昭和61）年 東映

## 山本周五郎（やまもと しゅうごろう）

山本周五郎「夏草戦記」原稿（複製）  
山本周五郎『夏草戦記』1945（昭和20）年3月 八雲書店  
山本周五郎「季節のない街」草稿  
山本周五郎『季節のない街』1962（昭和37）年12月 文藝春秋新社  
映画「赤ひげ」ポスター、パンフレット 1965（昭和40）年 東宝  
山本周五郎『赤ひげ診療譚』1959（昭和34）年2月 文藝春秋新社  
風間完 画「樅ノ木は残った」イメージ画  
山本周五郎『樅ノ木は残った』1969（昭和44）年8月 講談社  
山本周五郎「どですかでん」ポスター  
山本周五郎「多忙」原稿  
「博浪沙」第4巻10月号 1939（昭和14）年10月「多忙」掲載  
映画「ひとごころし」ポスター  
映画「さぶ」ポスター

山本周五郎『さぶ』1963（昭和38）年8月 新潮社  
写真パネル 秋山青磁 撮影 1936（昭和11）年正月に馬込の自宅前にて  
写真パネル 秋山青磁 撮影 芝生の上で

## 深沢七郎（ふかさわ しちろう）

深沢七郎「ろまんさ」原稿  
高橋忠弥画「ろまんさ」カット・挿絵原画  
「婦人公論」第43巻第6号 1958（昭和33）年6月「ろまんさ」掲載  
深沢七郎「檀山節考」原稿（複製）  
深沢七郎『檀山節考』1957（昭和32）年2月 中央公論社  
映画「檀山節考」ポスター 1983（昭和58）年  
深沢七郎『笛吹川』草稿（複製）  
深沢七郎『笛吹川』1958（昭和33）年4月 中央公論社  
谷内六郎 画『笛吹川』装幀原画  
映画「笛吹川」ポスター 1960（昭和35）年 松竹  
深沢七郎「母校訪問」原稿  
「深沢七郎ギター独奏集 祖母の昔語り」レコード  
深沢七郎選集出版記念「ギターリサイタル」リーフレット  
横尾忠則画「夢屋」ポスター  
写真パネル ギターリストの頃

## 山崎方代（やまざき ほうだい）

山崎方代「折から甲斐路の春は深く天まで桃の花盛りなり」額装  
山崎方代「茶の花の咲ける小径をらんらん少女が一人今降りて来る」軸装  
山崎方代「丸出しの甲州弁で申します花は死であり死も花である」額装  
山崎方代「笛吹の川のまさごの正仁に吾の生命をゆだねんとする」軸装  
山崎方代「裏の柿の木に日が当りいて女は遠方にある」一枚物  
山崎方代「方代の一日が暮れて朝が来て又ふあふあと日は闇けてゆく」軸装  
山崎方代「なまよみの甲斐の源氏の未なればゆみ取の弓高くあげなむ」軸装  
山崎方代「おそろしきこの夜の山崎方代を鏡の奥につき落すべし」軸装  
山崎方代愛用の品 眼鏡 万年筆 文鎮 太筆  
山崎方代『方代』1955（昭和30）年10月 山上社  
山崎方代『右左口』1973（昭和48）年12月 短歌新聞社  
山崎方代『こおろぎ』1980（昭和55）年11月 短歌新聞社  
山崎方代『青じその花』1981（昭和56）年12月 かまくら春秋社  
山崎方代『迦葉』1985（昭和60）年11月 不識書院  
湯川撮影パネル 拡大鏡で執筆（十朱幸代・広辞苑）

## 中村星湖（なかむら せいこ）

中村星湖「梅かおる林の奥の深大寺に傳教の額を仰き見るわれは」短冊  
中村星湖「ロマン・ロランの印象」草稿  
中村星湖「島村抱月の話」原稿  
中村星湖「飛ぶ鳥にかゝはらす立つ案山子かな」短冊  
中村星湖「多比良を過ぎて」原稿  
中村星湖「新河童歌」短冊  
ウォーター・スコット作 中村星湖訳「湖上の美人」翻訳草稿  
中村星湖「少年行」原稿（複製）  
中村星湖『少年行』現代代表作叢書第12篇 1915（大正4）年10月 植竹書院

## 前田 晁（まえだ あきら）

加藤武雄 前田晁宛書簡 1923（大正12）年9月14日  
前田晁『『文章世界』と私』原稿  
小出楯重 画「文章世界」表紙原画（複製）  
前田晁「クオレ」についての講演原稿3  
前田晁『少年国史物語』原稿（複製）  
田山花袋筆「文章世界」創刊号立案（複製）  
小出楯重画「文章世界」第15巻第11号表紙原画 1920（大正9）年11月（複製）

## 三井甲之（みつい こうし）

三井甲之「生命」草稿  
三井甲之「雪ふれば家にこもりてくのにのためしつものりぬ神をまつりて」短冊  
愛用のシルクハット  
三井甲之「友の悲しみ」草稿  
三井甲之「海の波よせてはかへすと思ふよりもよせてはかへすうねりを見たまへ」短冊  
愛用のインキ壺  
三井甲之「大須賀乙字の追憶」原稿  
三井甲之「うつりやすきこのよのたのしみうたにうたひとはにかたみとせむはたのしき」短冊  
三井甲之訳『ファウスト』1930（昭和5）年  
「アカネ」創刊号表紙原稿 1908（明治41）年2月  
「アカネ」創刊号表紙原稿 1908（明治41）年2月（複製）

## 中里介山（なかざと かいざん）と山梨

中里介山「大菩薩峠 流転の巻」原稿（複製）  
安岡章太郎「果てもない道中記（五）」原稿  
安岡章太郎「果てもない道中記（六）」原稿  
「群像」1991（平成3）年5月号  
中里介山「大菩薩峠 白骨の巻」原稿（複製：原本 日本近代文学館蔵）  
中里介山『大菩薩峠』1918（大正7）年11月 玉流堂  
中里介山『大菩薩峠』1919（大正8）年4月 玉流堂

## 伊藤左千夫（いとう さちお）と山梨の歌人たち

伊藤左千夫「よもつくにの道の長手をよろつたひかへりみすらむ旅の子ゆへに」短冊  
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1912（明治45）年2月19日消印  
岡千里「落椿地上にあそび居たりける青鷗のつがひ枝に上れり」短冊  
神奈桃村「岩窟のおくまるところ真かゝやく黄金の像一寸八分」短冊  
神奈桃村 岡千里宛葉書 年不明3月10日  
日原無限「真鏡と空澄渡りはらはらと木の葉を拂う初冬の風」短冊  
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年8月3日消印  
岡千里「永劫に山河亡びず落椿すぎたる人の慕はしきかも」短冊  
神奈桃村「紫芋をかこひ穴よりとりいだし芽あるとなしを選びわけるかも」短冊  
日原無限歌稿  
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年2月14日消印  
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年1月12日  
日原無限「時雨空霽れなむとする雲の色彼の雲の色よ君が心に」一枚物  
日原無限ほか「甲斐楓会（題苔）」原稿  
岡千里「落つばき真赤なりけりひたひたと今も落ちつゝ真赤なりけり」短冊  
日原無限「時雨空霽れなむとする雲の色彼の雲の色よ君が心に」一枚物  
「神奈桃村日記」1916（大正5）年10月15日～1922年2月28日  
神奈桃村「紫芋をかこひ穴よりとりいだし芽あるとなきを選びわけるかも」短冊

神奈桃村 岡千里宛葉書 年不明 3月10日  
「馬酔木」第3巻第6号 1906（明治39）年10月〈復刻〉  
伊藤左千夫「敷妙の家のうちとの物みなのきよきにきほひ咲ける花かも」短冊  
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年7月6日消印  
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1910（明治43）年1月3日消印

### 秋山秋紅蓼（あきやま しゅうこうりょう）

秋山秋紅蓼「手のひら」句稿  
秋山秋紅蓼「俳句型態の独立性」原稿  
秋山秋紅蓼 スケッチブック 1953（昭和28）年、1956（昭和31）年、1960（昭和35）年  
秋山秋紅蓼「青葉通り」句稿  
秋山秋紅蓼「語音感の働きについて」原稿  
秋山秋紅蓼画「応物写形譜」其ノ一  
秋山秋紅蓼「位置」句稿  
秋山秋紅蓼「初日まともたゞ忘却の時間の中」短冊  
秋山秋紅蓼「一作一律抄」原稿  
秋山秋紅蓼「温州蜜柑」スケッチ 1960（昭和35）年11月30日

### 田中冬二（たなか ふゆじ）と山梨

田中冬二「春」色紙  
田中冬二「春愁」草稿  
田中冬二「秋冷」草稿  
田中冬二「秋の匂ひ」色紙  
田中冬二「雪國」草稿  
田中冬二「冬日薄暮」色紙  
田中冬二「胡麻殻をくべて冬至の仕舞風呂」短冊  
田中冬二『青い夜道』1929（昭和4）年12月 第一書房

### 木々高太郎（きぎ たかたろう）

「シュピオ」第3巻第4号 1937（昭和12）年5月  
林麟「雑誌と新聞」原稿  
木々高太郎「パヴロフのイヌから宇宙犬まで」原稿  
木々高太郎「笛吹一或るアナーキストの死」草稿〈複製〉  
木々高太郎『人生の阿呆』1936（昭和11）年7月 版画社  
木々高太郎『笛吹』1948（昭和23）年3月 世界社

### 小尾十三（おび じゅうぞう）

小尾十三「しつけ糸」草稿  
小尾十三「燈火」草稿  
小尾十三「草原の夢」楽譜  
小尾十三 俳句・短歌草稿  
小尾十三「母への反抗時代」原稿〈複製〉  
小尾十三「親子だるま」原稿  
芥川賞記念品の腕時計  
小尾十三『雑巾先生』1945（昭和20）年2月 満洲文藝春秋社〈復刻〉

### 村岡花子（むらおか はなこ）

村岡花子「赤毛のアン」第5章翻訳原稿〈複製〉  
村岡花子「初めての本」原稿  
「横浜歩道」第38号 1964（昭和39）年11月「初めての本」掲載  
村岡花子「見合いの心理」原稿  
村岡花子「赤毛のアン」第4章 翻訳原稿〈複製〉

村岡花子「思春期と読みもの」原稿  
村岡花子『赤毛のアン』1952（昭和27）年5月 三笠書房

### 徳永寿美子（とくなが すみこ）

徳永寿美子「ヘレン・ケラー」草稿  
徳永寿美子『ヘレン・ケラー』1959（昭和34）年6月 偕成社  
徳永寿美子「小公子」原稿  
徳永寿美子「小公子」原稿（複製）  
徳永寿美子『小公子』1948（昭和23）年5月 広島図書  
徳永寿美子「シギトハマグリ」草稿  
「幼年倶楽部」第11巻第6号 1936（昭和11）年6月「シギトハマグリ」掲載  
徳永寿美子「童話とともに四十とせをへにけりただひとすじに」色紙  
アンデルセン作 徳永寿美子訳「白鳥の王子」翻訳草稿  
「こども家の光」「家の光」1959（昭和34）年1月付録「白鳥の王子」掲載

### 八木義徳（やぎ よしのり）

八木義徳「よく使われている。…」原稿  
『八木義徳全集』第4巻 1990（平成2）年6月 福武書店 妻正子に宛てた献辞入  
八木義徳「夢のかけ橋成る」原稿  
八木義徳「清原康正氏の『中山義秀の生涯』という本…」草稿  
八木義徳「灰色の海に」色紙  
「満洲観光聯盟報」第5巻第6号 1941（昭和16）年6月  
八木義徳『風祭』1976（昭和51）年8月 河出書房新社

### 武田泰淳（たけだ たいじゅん）

武田泰淳「船の散歩」原稿  
武田泰淳「勝負」原稿  
武田泰淳「わが子キリスト」原稿（複製）原本 日本近代文学館蔵  
武田泰淳 檀一雄宛葉書 1972（昭和47）年6月29日消印  
「海」第1巻第1号 1969（昭和44）年6月  
武田泰淳「富士」第9回原稿（複製）  
武田泰淳『富士』特製愛蔵本 1972（昭和47）年10月 中央公論社  
武田泰淳『富士』1971（昭和46）年11月 中央公論社  
司修『富士』挿絵原画エッチング

### 李 良枝（イ・ヤンジ）

李良枝「刻」草稿  
「群像」第39巻第8号 1984（昭和59）年8月「刻」掲載  
李良枝『刻』1985（昭和60）年2月 講談社  
李良枝「かずきめ」草稿  
李良枝「石の聲」草稿  
李良枝『石の聲』1992（平成4）年9月 講談社  
愛用の筆筒、文具類

### 辻 邦生（つじ くにお）

辻邦生「含羞のエロス」原稿  
辻邦生 大澤宏孝宛書簡 1990（平成2）年1月5日  
辻邦生「失われたものたちへのレクイエム」原稿  
辻邦生「埴谷雄高氏との出会い」原稿  
辻邦生 村松定史宛書簡 1982（昭和57）年3月28日  
「新潮」1982（昭和57）年2月「銀杏散りやまず」掲載  
辻邦生『銀杏散りやまず』1989（平成元）年9月 新潮社